

私は以前に勤めていた会社で社内研修を担当していた。その当時私は直接講師を担当しなかったが、司会、カリキュラムの作成、講師選定、その他裏方業務に従事した。いろいろな分野の講師や500

ナビゲーター

名以上もの受講者との出会いがあった。その間に私自身講師や受講者の方々からさまざまな事を学んだ。まさに「門前の小僧習わぬ経を読む」という感覚であっただろうか。具体的には、「講習は講師と受

産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 21

講師の共同作業で成り立つ」「受講者は十人十色」「講師には情熱が必要」「講師には人間性が問われる」など、実体験を通して肌で感じた。私にとっては、事務局を担当して講習を客観的に見る事ができたという経験が、その後の講師活動をする上で大いに役に立った。

そんな私が産業カウンセラーの資格を取得後に、社内での管理職や一般社員向けの

私のライフワーク

メンタルヘルス講習の講師を担当する機会を得た。今度は講師の立場になって初めに気づくことがあった。例えば「自分の技術的な未熟さを感じた」「自分の伝えたい事がなかなか伝えきれなかった」「アンケート結果に一喜一憂した」ことなどであった。講師としてやっていけるのか自信がなくなった。

その中で勇気づけられたのは、アンケートの中に記載されていた「講師が言ったことを実践してみようと思った」。講師の話を受けて元気が出た。講師の話が受講者のためになっ

たのだという喜びは大きかった。講師の魅力とは、このように受講者自らが気づき、感じて、行動変容につながる、元気になることの一助になれることである。また一方で多くの方との出会いがあり、自分自身も逆に元気をいただいたり、感動を覚え、これが講師冥利につぎると思う。

定年後も私は自分の産業カウンセラーの知識、技術を伝えていくことで社会貢献をしたいと思っ

ていて、主に市民を対象としていた。「コミュニケーション（話しの聴き方を学ぶ）」「自分でできるストレスケア」などの講座を実施している。微力ながら少しでも受講者が生き生きと充実した生活を送れるような支援につながればうれしい限りである。

人は誰でも何かを伝えるために生まれてきているのではないだろうか。こんなことを思いながら講師活動を私のライフワークとしている。

【日本産業カウンセラー協会中部支部会員 丸山悟】

(火曜日に掲載)

講師活動の魅力について

